

日本大学

かとう なおと
加藤 直人

日本大学学長



大塚吉兵衛前学長の任期満了に伴い、9月1日付で加藤直人文理学部教授が学長に就任した。

加藤新学長は1951年東京都生まれ。1974年日本大学文理学部史学科卒業、1979年日本大学大学院文学研究科東洋文学専攻博士後期課程満期退学、早稲田大学にて博士(文学)取得。1997年から日本大学文理学部教授、2010年から文理学部長・文学研究科長、2013年から副学長等を歴任。専門分野は東洋史。主な著書として『清代文書資料の研究』、『内国史院檔 天聰五年1・2』

(共著)など。新学長は2019年に創立130周年を迎えた日本大学で、教育理念である「自主創造」を基に16学部を擁する大規模な総合大学でありながら、全学的な共通教育なども積極的に推進していきたいとしている。特にこれまで全学的な「ワールド・カフェ」などをはじめとする様々な取り組みを実行してきたが、今後はその評価や機能性を検証し問題点を改善していくことが必要となる。就職対策においても約120万人の校友が後輩を支援できる体制づくりなど「人脈の強化」にも重点を置いていきたいとしている。

関西大学

まえだ ゆたか
前田 裕

関西大学学長



任期満了で退任した芝井敬司前学長の後任として、前田裕教授が2020年10月1日付で第43代学長に就任した。

前田新学長は、1956年大阪市生まれ。工学博士。1981年大阪府立大学大学院工学研究科修士課程修了。大阪府立高等学校教諭、関西大学工学部助手、専任講師、助教、教授を経て2007年システム理工学部教授。2008年同学部長、2012年から2期8年間、副学長を務め、その間、研究推進部長、社会連携部長、国際部長、学校法人関西大学常任理

事を歴任。専門は制御理論、計算機知能。

134年の歴史を持つ関西大学は2022年に、大学昇格、また学是「学の実化」の提唱100周年を迎える。前田新学長は、不確実性の高まる時代が求める大学の使命は、社会を先導する人材づくりと独創的研究の創造であるとし、多様性の時代に社会を牽引する関西大学の発展を目指す。「学の実化」の「学理と社会との調和」に基づき、絶えず不易流行を見極め、変化を恐れず、挑戦する関西大学をつくってきたいとの抱負を掲げている。

保立和夫(ほたてかずお)

豊田工業大学学長。東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了(工学博)。同大学院工学系研究科教授、理事・副学長を歴任。本学副学長・教授を経て、19より現職。

内藤二郎(ないとうじろう)

大東文化大学学長。'02神戸商科大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)。'10より大東文化大学経済学部教授、'20より現職。専門は現代中国经济論。

杉原保史(すぎはらやすし)

京都市学生総合支援センター長・教授。'89年京都市大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。教育学博士。臨床心理士・公認心理師。

西浦太郎(にしうらたろう)

甲南大学共通教育センター特任准教授・学生相談室専任カウンセラー。

田上正範(たがみまさのり)

追手門学院大学基盤教育機構准教授。'95北海道大学大学院工学研究科修士課程修了。パナソニック(株)を経て、'15から現職。共

著「理系のための交渉学入門」など。

早川和宏(はやかわかずひろ)

東洋大学副学長、学生部長、ウエルネスセンター長、法学部教授、弁護士。'00成城大学大学院法学研究科博士課程後期単位取得退学。

音好宏(おとよしひろ)

上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

猪瀬浩平(いのせこうへい)

明治学院大学教養教育センター教授、ポランティアセンター長補佐。専門は文化人類学・ボランティア学。著書は『ボランティアってなんだっけ?』(岩波ブックレット)など。

矢野泉(やのいずみ)

広島修道大学副学長。ひろしま未来協創センター長。博士(農学)。広島大学大学院准教授を経て、'15より広島修道大学商学部教授、'204月より現職。

筒井のり子(つついのりこ)

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

長。'83関西学院大学大学院社会学研究科(社会福祉学専攻)博士課程前期課程修了。社会学修士。'99より龍谷大学社会学部教授。

牧田東一(まきたとういち)

桜美林大学サービスマーケティングセンター長、リベラルアーツ学群教授。'02東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学、博士(学術)。主著『国際協力のレッスン』など。

菱河亮平(ひしかわりょうへい)

東北学院大学総務部地域連携課係長、東北学院大学災害ボランティアステーション所属。

光田剛(みつたつよし)

成蹊大学ボランティア支援センター所長・法学部教授。博士(法学)。成蹊大学講師等を経て、'18年に副所長、'19年に所長就任。『現代中国入門』(編著)など。

安田隆二(やすだりゅうじ)

学校法人東京女子大学理事長。カリフォルニア大学バークレー校政治学博士。マッキンゼー・アンド・カンパニーディレクター、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授等を

歴任。

安藤 寿康(あんどうじゅこう)

慶應義塾大学文学部教授・学生相談室長。
'86同大学大学院社会学研究科博士課程
単位取得退学。博士(教育学)。専門は行
動遺伝学、進化教育学。主著『なぜヒトは
学ぶのか』。

井口 知子(いぐちちかこ)

大正大学学生相談室相談員。'03大正大学
大学院人間学研究科臨床心理学専攻修了。
修士(臨床心理学)。同年より現職。臨床心
理士。

元田 謙太郎(もとだけんたろう)

(株)三菱総合研究所主任研究員。'89慶應
義塾大学大学院理工学研究科修士了。専
門はリスクマネジメント、危機管理など。

村上 大和(むらかみひろかず)

(株)三菱総合研究所主任研究員。'98東京
都立大学大学院都市科学研究科修士了。
専門は防災計画、防災まちづくりなど。

高森 裕子(たかもりゆうこ)

(株)三菱総合研究所首席研究員。'99京都
大学大学院法学研究科修士了。専門は社

会保障・ヘルスケア政策など。

吉江 弘和(よしえひろかず)

創価大学国際教養学部講師。上智大学卒
業後、ハーバード大学大学院博士課程より
Ph.D.取得。専門は近現代日本史。

植田 和男(うえたかずお)

共立女子大学ビジネス学部長、同学部教
授。'80マサチューセッツ工科大学大学院修
了、Ph.D.(経済学)、東京大学を経て'17よ
り現職。主著『ゼロ金利との闘い』など。

西村 美佳(にしむらみか)

学校法人文教大学学園経営企画課。'05青
山学院大学国際政治経済学部卒業。

中山 恵子(なかやまけいこ)

中京大学経済学部教授。名古屋市立大学
大学院博士後期課程。博士(経済学)。中京
大学図書館長・経済学研究科長。主著『投
入産出分析と最適制御の環境保全への応
用』など。

笹倉 香奈(ささくらかな)

甲南大学法学部教授、甲南大学図書館
長。一橋大学博士後期課程修了・博士(法
学)。専門は刑事訴訟法。

高倉 麻子(たかくらあさこ)

サッカー日本女子代表監督。15歳で日本代
表に選出され、ワールドカップ、アトランタオ
リンピックに出場。現役引退後は若手や指
導者の育成に従事し、'16からなでしこジャパン
を指揮。

川島 葵(かわしまあおい)

フリーアナウンサー。上智大学文学部卒。
'12からフリー。東海ラジオ「TOKYO UPSIDE
STATION」、川島葵の東京からも歌謡
曲」などに出演。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、
できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き

● 9月1日(火)
第4回常務理事会・第4回理事会に出席
(オンライン開催)

● 9月4日(金)
令和3年度私立大
学関係政府予算
要望を文部科学
大臣等に手交。
▼資料は、下記の私
大連Webサイト
をご覧ください。



● 9月10日(木)
文部科学省幹部との懇談会に出席

● 9月18日(金)
私大連役員選考委員会に出席

● 9月29日(火)
第1回総会・第5回理事会に出席(ハイ
ブリッド開催)

● 10月20日(火)
第6回理事会・第5回常務理事会に出
席(ハイブリッド開催)

私立大学の「対面授業再開」と
「授業料等」に関する見解を公表

日本私立大学連盟は、私立大学のコロナ
ウイルス感染症の対応に係る課題や実情を
広く共有するとともに、授業料等に関する

考えを公表しました。

考えを公表しました。
マスメディアを中心に「大学の対面授業は
いつ再開するのか。学生たちの学びや交流
の場が失われている」等の報道がなされて
いる現状を踏まえ、私立大学の対面授業再開
の努力と感染リスクが高い大学の実情を
広く社会に発信し、理解を求めました。
▼資料は、下記の私大連Webサイトをご
覧ください。

令和2年度オンライン教学担当
理事者会議開催報告

令和2年8月24日(月)、25日(火)の2日間に
わたり、オンラインにて開催。73法人74名の
参加をいただきました。教学担当理事の観
点から、各加盟法人のコロナ禍での「令和3
年度入学者選抜の課題・対応等」および、「春
学期対応、秋学期対応方針等」について、参
加者間で意見交換・情報共有を行いました。

オンライン学長会議開催報告

令和2年8月27日(木)、28日(金)の2日間に
わたり、オンラインにて開催。83法人88名の
参加をいただきました。教学に関する最高
責任者である学長の立場から、各大学のコロ
ナ禍対応の現状や課題、事例等について参
加者間で情報交換・情報共有を行いました。

令和2年度コンシエルジュ会議
(オンライン開催)開催報告

令和2年9月10日(木)、11日(金)の2日間に
わたり、オンラインにて開催。56大学56名の
参加をいただきました。新型コロナウイルス
感染症対応の状況や課題について情報共有
し、今後の取組への参考となることを目的
に、「財務面での対応」、「学内の感染予防
対策」、「新しい働き方」、「入試の実施体
制」の4つのテーマに分かれて、参加者間で
意見交換・情報共有を行いました。

令和2年度国の補助金等に関する
説明会(第1回オンデマンド配信)

文部科学省の概算要求にかかる加盟校へ
の情報提供と理解の深化等を目的として、
毎年「国の補助金等に関する説明会」を
行っています。本年度は、オンデマンド配信に
より、令和2年10月23日(金)〜令和2年11月
9日(月)まで開催しました。

私大連Webサイトにて
新型コロナウイルス感染症への
対応に関する情報を公開



<https://www.shidairen.or.jp/>

座談会 「『教養教育』とは何かを考える」

特集 「大学キャンパスのマネジメント」

小特集 「コロナ禍における入試広報」

だいがくのたから

大学点描

クローズアップ・インタビュー

東洋学園大学

九州産業大学

山下利奈さん(株式会社高橋書店編集者)

編集後記

◆阪神・淡路大震災以降、さまざまなボランティア活動が社会に広がり、大学をはじめとする教育の場においても身近なものとなってきた。かつて、「日本社会にはボランティアが根付きにくい」と言われていたことが、不思議に思われるほどだ。その一方で、自発的に行われるはずの活動が、奉仕活動として全員に課せられたり、生徒・学生の「自主性」をはかる課外活動の一つに位置付けられたりする例もあり、大学におけるボランティア活動の在り方について、問題点を共有し、これからの課題を考える必要があると感じていた。

今回の特集を通じて、ボランティア活動が学生の成長の糧になってきたことや活動を通じた地域貢献・社会貢献の多様性を改めて実感し、今後の可能性に期待する気持ちが強くなった。人と人との直接的な交流が十分でなくなった今だからこそ、大学におけるボランティア活動について、立ち止まって考えるよい機会になったのではないかと思う。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員・中央大学文学部教授 松田美佐

◆コロナ禍における大学の課題の中には、実はそれ以前から課題であったものが、コロナ禍を通じてより鮮明化したと指摘されるものがある。

座談会及び小特集連動企画にある「学生の心のケア」もその一つであろう。学生の多様化が進み、学生の心のケアに対する窓口や支援方法の多様化、多角化の必要性は以前からの課題であったが、今回の企画で、窓口を担当する部署だけでなく、あらゆる部署で学生の様子を意識し、横断的に対応していくことが重要な状況であることがよく分かった。

心と体のバランスを取る難しさは学生だけでなく、教職員を含む構成員すべてに共通するものである。「密」を避けて、ひとりパソコンに向かうとき、働くことに対するモチベーションを外だけでなく自らの内にも求めること、そして同僚に積極的に声を掛けていくこと、人へ感謝することの大切さを認識する日々。いずれもコロナ禍以前から課題であり、大切であったことだ。引き続き、意識して取り組むことにしたい。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員・上智大学総務局SGU事業推進室長 中山映

◆リモート取材となったクローズアップ・インタビューでは、サッカーなどでこジャパン監督である高倉麻子さんのお話を伺った。画面越しにも伝わる太陽のような笑顔は、そのお人柄の表れかと思う。日本女子サッカーの黎明期ともいうべき時代に、一心にボールを追い続けた思い、その時々の人との出会い・周囲の理解と応援への感謝の気持ちだが、監督として選手たちと向き合う思いに通じているのを感じる。

座談会では、誰もが初めて遭遇する状況において、学生の心に寄り添い、ケアする道を模索する大学の思いと苦悩、挑戦と可能性に触れる機会となった。

高倉監督の言葉を借りれば、いまは道が見えない時代の中にあるのかもかもしれない。インタビュー・座談会を通じて感じることは、人との出会いとつながりが、どれほど人の心と人生を豊かにするかということである。大学ではすでに、対面型・ハイブリッド型授業などの新たな試みの実施段階に入っている。まさにここからがスタートである。へ日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (125大学 令和2年11月20日現在)

| | | | |
|------------|------------|--------------|------------|
| 愛知大学 | 金沢星稜大学 | 南山大学 | 園田学園女子大学 |
| 亜細亜大学 | 関西大学 | 日本大学 | 大正大学 |
| 青山学院大学 | 関西学院大学 | 日本女子大学 | 拓殖大学 |
| 跡見学園女子大学 | 関東学園大学 | ノートルダム清心女子大学 | 天理大学 |
| 梅花女子大学 | 関東学院大学 | 大阪学院大学 | 東邦大学 |
| 文教大学 | 慶應義塾大学 | 大阪医科大学} | 東北学院大学 |
| 筑紫女学園大学 | 恵泉女学園大学 | 大阪薬科大学} | 東北公益文科大学 |
| 中央大学 | 敬和学園大学 | 大阪女学院大学 | 東海大学 |
| 中央大学 | 神戸女学院大学 | 大谷大学 | 常磐大学 |
| 大東文化大学 | 神戸海星女子学院大学 | 追手門学院大学 | 東京医療保健大学 |
| 獨協大学} | 皇學館大学 | 立教大学 | 東京女子大学 |
| 獨協医科大学} | 國學院大学 | 立正大学 | 東京女子医科大学 |
| 姫路獨協大学} | 国際武道大学 | 立命館大学} | 東京経済大学 |
| 同志社大学} | 国際基督教大学 | 立命館アジア太平洋大学} | 東京農業大学} |
| 同志社女子大学} | 駒澤大学 | 龍谷大学 | 東京情報大学} |
| フェリス学院大学 | 甲南大学 | 流通科学大学 | 東京歯科大学 |
| 福岡大学 | 久留米大学 | 流通経済大学 | 東洋大学 |
| 福岡女学院大学} | 共立女子大学 | 西武文理大学 | 東洋英和女学院大学 |
| 福岡女学院看護大学} | 京都産業大学 | 聖学院大学 | 東洋学園大学 |
| 学習院大学} | 京都精華大学 | 成城大学 | 豊田工業大学 |
| 学習院女子大学} | 京都橘大学 | 聖カタリナ大学 | 津田塾大学 |
| 白鷺大学 | 九州産業大学 | 成蹊大学 | 和光大学 |
| 阪南大学 | 松山大学 | 西南学院大学 | 早稲田大学 |
| 広島女学院大学 | 松山東雲女子大学 | 聖路加国際大学 | 山梨英和大学 |
| 広島修道大学 | 明治大学 | 清泉女子大学 | 四日市大学} |
| 法政大学 | 明治学院大学 | 聖心女子大学 | 四日市看護医療大学} |
| 兵庫医科大学} | 宮城学院女子大学 | 専修大学} | |
| 兵庫医療大学} | 桃山学院大学} | 石巻専修大学} | |
| 実践女子大学 | 桃山学院教育大学} | 芝浦工業大学 | |
| 上智大学 | 武蔵大学 | 白百合女子大学} | |
| 城西大学} | 武蔵野大学 | 仙台白百合女子大学} | |
| 城西国際大学} | 武蔵野美術大学 | 昭和女子大学 | |
| 順天堂大学 | 名古屋学院大学 | 創価大学 | |

大学時報 University Current Review

2020/11月号

第69巻395号(通巻408号)

令和2年11月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 植木朝子(同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館
電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363
<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル3階
〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)
小島隆久(同志社女子大学広報部広報室長)
須藤智徳(法政大学多摩事務課主任)
中山映(上智大学総務局SGU事業推進室長)
依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)
永野誠(関西学院大学高大接続センター入試課長)
田上雅徳(慶應義塾大学法学部教授)
江津英昭(明治大学経営企画部広報課長)
兼高聖雄(日本大学芸術学部教授)
長野香(立教学院広報室長)
青柳祐(立命館大学総合企画部広報課長)
山田健太(専修大学文学部教授)
長野留三子(大正大教務部教務課長)
鈴木宏隆(早稲田大学広報室長)
齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)
加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)
権藤和代(日本私立大学連盟事務局)

